

愛知総合工科（ASK）アクションプラン2026

将来、テクノロジストとなりイノベーションを起こす人材を育成するために
～日本一の工科高校、全国初の工科中学として、職員・生徒一丸となって挑む～

愛知県立愛知総合工科高等学校・附属中学校

1 進学・就職（国立大・技能五輪金メダル）のどちらの夢も叶える

(1) 大学進学

「国立100人」を目指し、本校からの学びの継続（大学等）による未来の研究者を目指した理工系トップ人材、工業系リーダーを養成する。

現状を見据え、「**国公立35人**」以上を目指す方策を検討し、職員一丸となって実現に挑む。

国公立大学 合格者数

年度	2026目標	2025	2024	2023	2022	2021
人数(浪)	35人以上	30(2)人	26(1)人	20人	30人	23人

○ 「国公立大学 35人」以上を実現するための手立て

- ・進学希望生徒の学力・資質を的確に把握し、複数教員が組織的・継続的に関わる進学指導体制を構築することで、国公立大学合格に必要な力を確実に育成する。
- ・課題研究等を生かした国公立大学の総合型・学校推薦型選抜に対応した校内指導モデルを確立し、工業高校生の強みを生かした進学実績の向上を図る。

(2) 就職・専攻科進学

卒業後、進学者に打ち克つ、骨太な技術者・技能者を目指し、本校からものづくり現場のリーダーを育成する。現状を見据え、「技術職」採用の企業を本校として確定し、「**企業内学園・技術職（専攻科進学含む）・公務員 70人**」を実現するとともに、「**一次内定率97.5%以上**」を達成し、職員一丸となってこの実現に挑む。

企業内学園・技術職（専攻科進学含む）・公務員 合格者数

年度	2026目標	2025	2024	2023	2022	2021
人数 (専攻科)	70人以上 (36人以上)	72人 (35人)	67人 (38人)	64人 (33人)	71人 (32人)	65人 (34人)
一次内定率	97.5	97.2%	95.4%	97.5	91.0	92.4

<消防・警察・自衛官を除く>

(3) キャリア教育・資格取得

高2生全員が**インターンシップ・オープンキャンパス等に参加する。**

年度	2026目標	2025	2024	2023	2022
高2生	158人/317 (50%以上)	136人/316 (43.0%)	156人/356 (43.8%)	117人/358 (32.7%)	105人/381 (27.6%)

T&Eサポーターを活用し、**年9回以上**の「キャリアデザインプログラム」を実施する。

年度	2026目標	2025	2024	2023	2022
登録数	460以上	447	404	367	328
回数	9回以上	9回	9回	9回	9回

ジュニアマイスター顕彰を取得し、自己のキャリア形成と将来の夢の実現に役立てる。

年度	2026目標	2025	2024	2023	2022
ゴールド	50人以上	50人	46人	54人	32人
シルバー	50人以上	45人	28人	26人	42人
ブロンズ	50人以上	28人	18人	17人	35人

(4) 企業・大学・専攻科等との連携

科目「**課題研究**」において**企業・大学・専攻科等と連携する取組**とともに、工業科目「**実習**」における評価の改善（全実習のルーブリック作成）による技の強化

年度	理工	機械系	電気系	建設	デザイン工学
2025	114テーマ	6テーマ	4テーマ	3テーマ	5テーマ
2026目標	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上

(5) 附属中学校との連携

中高一貫校として、各分掌が同じ学び舎で共に学び成長する教育活動を充実する。

年度	総務部	教務部	保健部	生徒指導部	進路指導部	学科	その他
2026目標	3回	5回	4回	8回	9回	下表	—

年度	理工	機械系	電気系	建設	デザイン工学
2026目標	20回	40回	3回	3回	2回

2 「A I S O U C H U」独自の教育課程の確立

(1) 「自主」・「自律」を育む教育活動

「自律（自ら考え、判断する）」「自主（自分からすすんで行動する）」は密接につながっているため、相互に関連付けた教育活動を推進する。

○ 「自律した学習者」を育てる学習評価の実践

- ・各教科で小テスト・単元テストを行うとともに、期末には実力テストを行う。生徒自身が学習成果を振り返り、自己調整力を働かせることで、長期的に学習意欲を継続させることを図る。
- ・パフォーマンス課題や学習ポートフォリオを活用した総合的な学習評価を行う。知識の定着だけでなく、思考判断や教科の見方・考え方を重視した教育活動を展開する。

○ 生徒自身による意思決定の尊重。

- ・探究学習や学校行事、日常生活など数多くの場面で生徒同士が話し合いながら合意形成を図る場面を数多く設定し、**民主的な意思決定に参画する意識**を育てる。

○ チーム担任や高校生との交流を通じた成長機会の確保

- ・チーム担任制をもとに多くの教員が生徒と交流する。教員の多様な視点と専門性をいかし、きめ細かな対応を行うとともに、生徒の人間関係形成能力の成長を図る。
- ・中学1年から専攻科2年生までが一つの学び舎で生活する中で、部活動や学校行事など多くの場面で年齢の異なる多くの人と出会う機会を設定し、他者を理解し協働することができる社会性の向上を図る。

学校評価における該当質問への肯定的な回答率

年度	中1生	中2生	中3生
2026目標	70%以上	—	—

(2) 「好奇心」を育む教育活動

○ 本校の教育資源を活用した体験・探究学習の実践

- ・実体験を成長に繋げる教育として、**「T&E J Challenge100」を計画的に実践**する。
- ・各教科の授業においても、学校資源を活用した体験・探究学習を充実し、本科の専門的な学びへの接続を行う。
- ・数多くの体験機会を提供し、自らの興味を高い精度で認識させることで、探究の質の向上をめざす。
- ・学習成果や探究活動の**発表機会**を数多くもつことで、自らの学びを振り返り自己調整力を働かせる場面設定を行う。

体験・発表機会

年度	中1生	中2生	中3生
2026目標	各10回以上	—	—

3 4C(Curiosity・Challenge・Communication・Courtesy) + R(Recruiting)

(1) Curiosity (好奇心) : 工学の見方・考え方を働かせることができる人

○補習・家庭学習等の充実による職業教育技術顕彰の90%以上の取得(1年生)

年度	2026目標	2025	2024	2023	2022
高1生	286人/318 (90%以上)	168人/317 (53.0%)	281人/319 (88.1%)	251人/357 (70.3%)	265人/358 (74.0%)

(2) Challenge (挑戦意欲) : 学習意欲を喚起し、目標設定と到達することができる人

○学びの基礎診断によって明らかとなった指標(GTZ)に対応した指導計画の作成と実践

→ 学びの基礎診断の一環として1学期初めと2学期初めの「基礎力診断テスト」2回、工業基礎学力テストを実施し、「学習到達ゾーン(GTZ)」等に対応した指導の実践

(3) Communication (コミュニケーション力) : グローバルに活躍できるコミュニケーション力を身に付け、リーダーシップが発揮できる人

○1・2年生におけるチーム担任制など、全職員で生徒の成長を促す体制の構築と実践

(4) Courtesy (礼儀) : 人間性を高め、よりよい社会の構築に寄与することができる人

○生徒会・部活動・各種委員会等と連携しながら、10周年記念を契機とした生徒の自主性を促す取組の実践

(5) Recruiting (生徒募集)

○志願者の更なる増加のため、PR方法を改善する。

「魅力をシンプルに言語化」、「体験の場を増やす」、「進路の安心感を示す」

「生徒や卒業生が主体的に語る」

本科生徒募集状況

年度	2027目標	2026	2025	2024	2023
募集定員	***人	320人	320人	320人	360人
推薦志願者数	80人以上	71人	40人	54人	43人
一般志願者数	***人 2.3倍以上	571人 2.29倍	626人 2.23倍	592人 2.23倍	490人 1.55倍
第1希望	***人 *.**倍	420人 1.69倍	448人 1.59倍	439人 1.65倍	333人 1.05倍
第2希望	***人	151人	178人	153人	157人

附属中学校生徒募集状況

年度	2027目標	2026			
募集定員	***人	35人	—	—	—
志願者数	***人 2.5倍以上	100人 2.86倍	—	—	—

教員が自ら率先し行動するとともに、教育の一回性を常に意識し、不祥事防止を徹底する